

前例の姫路工業において、下記のように会社再建策が奏功したとすれば、資金需要は、いくらになるか推計します。

- ・売上高 10%減
- ・付加価値率 55%に向上
- ・固定費 20%減
  
- ・基準年度の売上高は2億円です

#### 資産に対する対策

- ・現金、預金保有高は現状維持
- ・固定資産については、整理、処分、増設の計画はありません
- ・受取勘定や棚卸資産等は、売上高に比例し、10%減の計画です

なお資産に対する計画は、例題13-3と同様(受取勘定、棚卸資産等は売上高と比例し、10%減の計画です。

(アルゴリズム)

$$t(\text{総資金需要倍率}) = a(\text{現預金倍率}) \times A_i(\text{現預金構成比率}) + b(\text{受取勘定倍率}) \times B_i(\text{受取勘定構成比率}) + c(\text{棚卸資産倍率}) \times C_i(\text{棚卸構成比率}) + G(1)i(\text{繰越欠損金構成比率}) + \left\{ \frac{m's(\text{新付加価値率}) \times s(\text{売上げ高倍率}) - (m-u)(\text{固定比率}) \times f(\text{固定費倍率})}{u(\text{売上利益率})} \right\} \times G(2)i(\text{当期欠損金構成比率})$$

基準年度貸借対照表借方

現金	預金	500
受取勘定		3,750
棚卸資産		2,500
固定資産		1,750
繰越欠損金		1,000
当期損失		500
合	計	10,000

倍率等

売上高倍率	0.9
現付加価値率	0.5
目標付加価値率	0.55
売上利益率	-0.025
現預金倍率	1.0
受取・棚卸資産倍率	0.9
固定資産倍率	1.0
固定費倍率	0.8
基準年度売上高	20,000
基準年度固定費	10,500

## 出力

資金需要倍率	0.788
資金需要額	-2,125

## 予測損益計算書

売上高	18,000
比例費	8,100
付加価値	9,900
固定費	8,400
利益	1,500

## 予想貸借対照表借方

現金	500
受取勘定	3,375
棚卸資産	2,250
固定資産	1,750
繰越欠損金	1,500
当期損失	1,500
合計	7,875